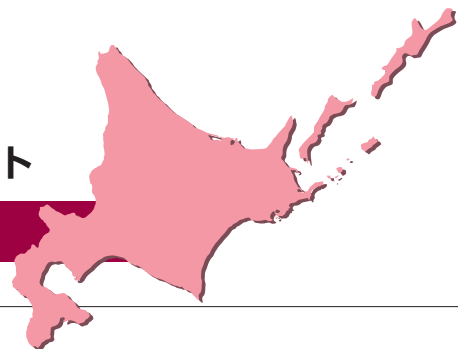


11月の道内景況

情報連絡員レポート

売上高、収益状況に回復は見られず 足元の感染再拡大で持ち直しの陰り



概況

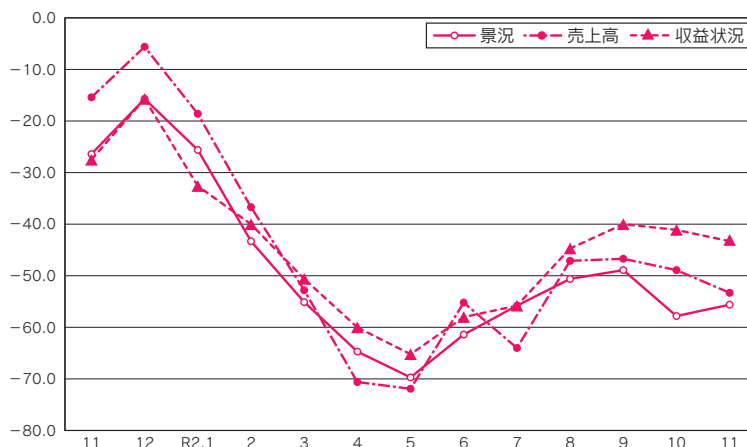
全業種の主要DIの推移では、「景況」は若干改善した一方、「売上高」「収益状況」は9月から2か月連続の悪化となった。

業種別に見た比較では、製造業で「売上高」「資金繰り」が前月を下回り、非製造業では、「売上高」「収益状況」の2項目で前月を下回る結果となった。

11月の情報連絡員報告によると、コロナ感染拡大による警戒レベル引き上げに伴う外出自粛等について「影響がある」とした組合は業種を問わず多数見受けられ、コロナの長期化による業績悪化や先行き不透明感の高まりを危惧する声が多かった。

DIは依然マイナス域で推移し、現下の厳しい状況が窺える結果となっている。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比
業界の景況	△57.8	△55.6	2.2 ↗	△62.5	△57.6	4.9 ↗	△55.2	△54.4	0.8 ↗
売上高	△48.9	△53.3	△4.4 ↘	△53.1	△60.6	△7.5 ↘	△46.6	△49.1	△2.6 ↘
収益状況	△41.1	△43.3	△2.2 ↘	△53.1	△48.5	4.6 ↗	△34.5	△40.4	△5.9 ↘
販売価格	△8.9	△6.7	2.2 ↗	△9.4	△6.1	3.3 ↗	△8.6	△7.0	1.6 ↗
取引条件	△12.2	△8.9	3.3 ↗	△9.4	△9.1	0.3 ↗	△13.8	△8.8	5.0 ↗
資金繰り	△22.2	△22.2	0.0 →	△28.1	△30.3	△2.2 ↘	△19.0	△17.5	1.4 ↗
雇用人員	△20.0	△17.8	2.2 ↗	△9.4	△9.1	0.3 ↗	△25.9	△22.8	3.1 ↗

(凡例)

30 以上

10 ~ 29

9 ~ △ 10

△ 11 ~ △ 29

△ 30 以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気表示は凡例のとおりです。

製造業

- ・コロナの影響から回復しつつあったが、警戒レベルの引き上げで人の往来が減少し、売上も落ち込んだ。(水産食料品/全道)
- ・コロナ感染再拡大を受けた外出自粛で、量販店での買い物が控えているのか以前のように売れない。ラーメン店等の業務店も観光地や中心部は昨年比半分以下の業績となっている所も見受けられる。(めん類/全道)
- ・10月単月の出荷量は、味噌は前年比増、醤油は前年比減。味噌業界と醤油業界を比較した場合、前年対比で醤油業界の方が3%程度落ち込みが大きい。ここに来て外国産大豆価格が上昇傾向になっていることが気がかり。コロナが収束し、観光事業等が元に戻らない限り、現在のような出荷状況が続くと思われる。(味噌・醤油/全道)
- ・11月上旬はGoToキャンペーンが奏功し、各地で賑わいが見られたが、その後のコロナ第3波で飲食業、観光業界の景況は一気に悪化した。スーパー・コンビニ等小売業でも前回のようないずれもは起らず、飲料水の売上も減少したようだ。(飲料/全道)
- ・製材市況は、地域差が生じており、カラマツ、エゾ・トドマツいずれも保合。原木市況では、カラマツは弱保合～保合。エゾ・トドマツは弱含み～保合。カラマツ原木の在庫は潤沢だが、梱包材やパレットの受注がなく製材の荷動きは非常に悪い。エゾ・トドマツ原木も、カラマツ同様、製材工場在庫を多く抱えているものの、若干の上向き傾向にある。ツーバイ材用の製材受注が旺盛で、桟木についても多少動きが出始めている。紙原料は、紙需要が落ち込んでいることから木材チップ価格の低下が見られる。木質バイオマス原料は動き出している。お

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

- ・コロナの感染再拡大に伴い消費行動が激減し、商品によっては5割減となった。靴市場では北海道は全国平均より前年対比10%数字が低く、札幌市内は更に10%低減するなど札幌市中心部の落ち込みが大きい。対面販売に比べ、通販は比較的順調。生活必需品の日常雑貨は安定している。組合の賛会議室等はコロナの影響でキャンセルが相次ぎ、例年の2割程度の利用率に落ち込んでいる。(各種商品/札幌)
- ・11月買上高は先月比で増加した。コロナの感染再拡大の影響で外食を控えた消費者が市中の青果業者や大規模小売量販店などで実需要向け食材を購入する頻度が高くなったことが原因と思われる、組合員の業績は上向く結果となった。(野菜・果実/全道)
- ・コロナの感染再拡大で外出自粛傾向が強くなってきたこともあり、食品スーパー等との取引では前年同水準を維持しているものの、観光関連の業績は思わしくなく、厳しい状況が続いている。コロナの長期化により資金繰りの面などでも懸念の声が高まっている。(菓子/全道)
- ・市街地の人通りが少なくなり、全般的に消費が冷え込んでいる。業種別では、家電量販店、ドラッグストアで前年超えとなったものの、衣料品・旅行業・飲食店の状況は一層厳しく売上減となった。キャッシングにおいても同様に減少している。(各種商品/旭川)
- ・GoToトラベルで観光客が増加していたが、コロナ感染再拡大により自粛要請が出ると春頃の状態に戻ってしまった。月末の特売日は地元客で盛況だったが、平日は地元民も不要な外出を控えているため客足は鈍い。外出自粛は対面販売の市場には厳しい。(各種商品/小樽)
- ・コロナ感染拡大の影響で厳しい状況が続いており、特に衣料品関係の組合員からは、来店客が減少して非常に厳しい状態との声が聞かれた。組合の11月取扱高も先月同様、前年同月を大きく下回る厳しい結果となった。マイナス要因として、コロナの影響とプレミアム付商品券事業の開始が挙げられる。(各種商品/釧路)
- ・GoToトラベルで観光客が少しずつ増え、賑わいを取り戻しつつあったが、コロナ感染再拡大の影響で再び減少に転じた。若干だが国内ツアーの来店もあった。(鮮魚/釧路)
- ・11月前半は売上も戻りつつあったが、コロナ第三波で観光、ホテル、飲食業界でかなりの影響が出ている。魚も、高級店やホテルの宴会で使う刺身関係の高級魚の価格が下がり、商品が動かない状況である。(各種食品/札幌)
- ・11月の原油価格は、前月末の低価格から一転して上昇基調で推移したものの、末端市場においては、依然低価格競争の激化傾向が見受けられ、特に安値市況が続く激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい状況。店頭マージンの低位傾向も続いており、低燃費車に乗り換えた顧客が一層目立つなど危機感を

非製造業（建設・運輸業）

- ・現状コロナの影響はほとんどないが、来年以降の工事量、特に民間工事が大きく減少するのではないかと強い危機感を持っている。(塗装工事/札幌)
- ・公共工事は入札物件数も少なくなり、来年度の工事に向けて準備をしていく時期になってきている。民間に関しては、規模の大きな工事等が少ずつ計画されはじめている。受注する上で、価格競争は更に厳しくなると推測されるが、人員の確保が難しいという側面もあるため、より早期に技術者を準備して価格交渉をしていくことが必要。コロナの感染拡大により、年末に向けた営業活動が自粛となる中で、どのように取引先とコミュニケーションをとり情報収集していくのかが大きな課題となっている。(電気工事/全道)
- ・多くの事業所で人手不足の状態が見られ、熟練技能者や従業員の確保が喫緊の課題となっている。(左官工事/全道)
- ・今年度の市発注の工事は11月末時点で完了し、組合全体の受注高は昨年度と

- が粉原料用丸太が地域によっては集荷されているようだ。(一般製材/全道)
- ・11月の生コン出荷量は前年同月比101.1%の約327千m³。(窯業・土石製品製造業/全道・生コン)
- ・事業量の増加には、運転手を増員しトラックの稼働率を上げたり、季節労働者を雇用するなどして対応している。今後は冬場の河川工事が増え、護岸のコンクリートが産業廃棄物になることで砂利需要が落ち込むことが予想される。(窯業・土石製品製造業/全道・砂利)
- ・冬前に済ませようという民間の小規模な工事が例年通り増えてきており、年内いっぱいには中小の建築業者まで全体的に忙しくなっている。コロナの感染再拡大で、年明け以降は民間市場が急激に冷え込んでいく可能性が高いと危惧している。(窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)
- ・水道関連は底堅く堅調に推移しているが、冬季の閑散期を迎え、どこまで下落するか注視している。海外向け建設機械関連は30%ダウン、一般・産業機械関連は15～20%ダウンした。自動車向けは持ち直した感がある。鋳造用型の新規案件は激減している。(鉄鉄鋳物/全道)
- ・修繕船工事の受注が好調で、下期までの手持ち工事は確保されているが、令和3年度上期以降の工事は未定のため新規受注に期待している。橋梁工事、産業機械の受注減により仕事量が減少しており、他の橋梁メーカーからの受注だけでは過剰人員が発生し、高齢者は休業している状況。公共事業の発注に期待している。(金属製品/室蘭)

- あらわにする販売業者も多い。コロナ感染再拡大により、北海道におけるGoToトラベル事業が一時停止となったことを受け、ガソリンのさらなる需要減が懸念される。(燃料/全道)
- ・11月の卸値は若干の値上げ推移となった。小売店販売価格も改定で推移し、収支状況も従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭に圧縮、販売量は戻ってきているもののコロナの影響で前月同様収益は落としている。(燃料小売業/旭川)
- ・原油価格は小幅な増減で推移しており、市況価格は8月以降低値置きされている状態。11月に入って暖房用燃料の需要が前年並みとなっているが、業界全体の景況は低調である。(燃料小売業/稚内)
- ・大手は前年並みの売上を確保した一方、中小では依然苦戦が続いている。代表者の高齢化が進み、後継者問題に悩む組合員が見受けられる。(農業用機械器具/全道)
- ・冷蔵庫や洗濯機など各メーカーの主力製品が欠品を起こし、結果的に売上減少につながっている。他にも加湿器等が品不足の状態。(電気機械器具/全道)
- ・コロナ感染拡大の影響で小売は苦戦を強いられているが、販売方法についてリモート商談を導入するなど様々な工夫をしているようだ。(中古自動車/札幌)
- ・積雪が遅いため、いまだ自転車の修理等で来店する客が多い。(自転車・自動車/全道)
- ・地元百貨店の10月上売上高は、前年同月比6.3%減の3億4,580万円。コロナの影響で催事を開催できなかったことが響いた。11月共通駐車券の利用は前年同月比85.4%、買物共通バス券は前年同月比84.7%に減少。コロナの感染再拡大で厳しい状況が続いている。(帯広市・商店街/帯広)
- ・11月は先月同様、GoToトラベルと町独自の宿泊助成金の相乗効果があり、さらに二次交通補助による札幌・旭川からの送迎バス付プランの予約が伸びたことで、前年度と同等の集客になったが、コロナ感染再拡大によるキャンセル数も日ごとに増えている。4月から11月の入込客数は前年比半分程度の回復に留まっている。(旅館/音更)
- ・コロナ感染拡大で事業の自粛等を余儀なくされている。利用者の今後の動向が懸念される。(公衆浴場/全道)
- ・比較的元気な道内IT業界に就活する新卒学生が増加しているが、コロナ感染再拡大の現状では、今後の業績予測が難しいことから、採用者数は必要最小限に絞り込むIT企業が多い。また業績によっては内定取り消しや辞退が発生する恐れも懸念されている。良い人材を確保したい中で、業績不安を抱える道内中小IT企業と就活を切り上げたいが止められない学生双方の悩みが年度末ギリギリまで続きそうだ。(ソフトウェア/全道)